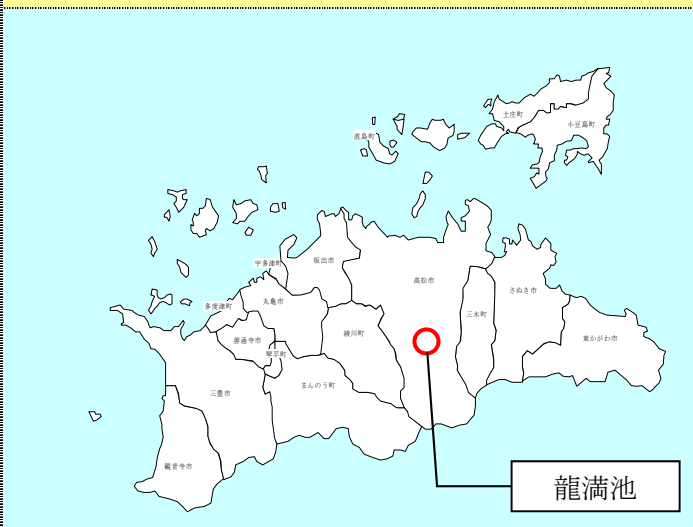


龍満池 (りゅうまんいけ)



諸元

貯水量	528.4 千m ³
満水面積	14.2 ha
受益面積	94 ha
堤高	8.8 m
堤長	520 m

高松市香川町川東下にある龍満池は、讃岐の国を襲った大干ばつの翌年、寛永4年(1627年)に西嶋八兵衛により築造されたと言われています。雨が少なく水持ちの悪い土地柄でしたが、この地には、池が築かれる以前に梅ヶ井出水という小さな出水があり、今も池底で湧き水があると言われています。ここに、香東川に設けた世中井堰から取水した水を溜め、大野・川東の農地に水を送っていました。しかし、龍満池を築造してもなお水不足に見舞われることも多かったことから、地域独自の水利慣行のもと、貴重な水を一滴も無駄にせず、公平に分けるために行われた香水の記録が数多く残っています。また、昔からたくさんの呼び名があり、龍満池の他にも、大野池、北田井池、立満池など様々でしたが、江戸末期の庄屋の名前(龍満権之守)から、その後は龍満池の呼び名が定着したようです。

龍満池の中には、明治初年(1868年)に設けられた川東八幡神社の御旅所が、幅10m、長さ150m余りにわたって真っすぐに延びています。一時は、讃岐競馬クラブが経営する競馬の練習場にもなりましたが、昭和8年には、嵩上とともに沿道に桜が植えられ、池に浮かぶ桜の路は、春の訪れを告げる風物詩となっています。さらに、近年は堰堤への桜の植樹や東屋等の環境整備も進み、地域の内外から花見客が訪れる竜桜公園りゅうおうこうえんとして多くの人に親しまれています。



上空から見た龍満池



取水塔側から御旅所を望む